



横浜市立釜利谷東小学校

1月号

# 学校便り

TEL 045-783-9398

FAX 045-701-9817

令和5年1月10日

## ひがしの願い

ひとつの命

がんばる心

しんじあう仲間

## 当たり前の中の「？」

校長 梅田 研一

明けましておめでとうございます。旧年中は本校の教育活動に御理解、御協力をいただき、ありがとうございました。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、昨年末のある日、長年通っていた東京のとあるスポーツ関連商品の店を、コロナ禍以来3年ぶりに訪れ、ある商品を購入しようとしたときのことで。店にはあいにくちょうどよいサイズのものがなく、アメリカからの取り寄せになるとのことでしたが、その際店主にこう言われたのです。「現地は異常気象による大寒波に見舞われていて、物流がことごとくストップしている。届くのは1月中旬以降になる」。急ぐものではないし、楽しみが少し先に伸びる位の気持ちで、その時は入荷次第連絡をもらうことにして店を後にしました。

年が明け、毎年恒例の箱根駅伝を2日間にわたって観戦しているとき、CMに入る直前に過去のレース風景の動画が映し出されますが、先日の店主に言われたことをふと思い出し、こんなことを思いました。“そういえば、箱根駅伝もこの30年位は天候が大きく崩れたことはなかったのでは？”と。調べてみると、過去3回（1952年、78年、85年）雪道での開催があったそうです。全国的には大雪に見舞われたこの年末年始でしたが、少なくとも関東地方では天候が大きく崩れることはないのがもはや当たり前で、比較的温暖な年末年始はありがたいことではあります。しかし昭和までは“雪の箱根駅伝”もあったことを考えると、むしろこの30年以上の安定した天候は、ある意味“おかしい”ことなのかもしれません。

“異変”というのは、それが自らに不利益をもたらす方に向かっているときには、早めに気づくこともでき、何らかの手が打てるのかもしれませんが。しかし一見すると自らに都合のよい方に向かっているときには、よほど意識しないと“おかしい”とは思えない（思いたくない）のでしょう。“先入観”、“バイアス”という言葉はこれらをさし示しているのではないかと思います。先ほどの天候の話を引き合いに出すまでもなく、地球温暖化の問題は、改めて考えるとまさに“バイアス”によってより大きな問題になってしまったといえるのかもしれません。

年明け早々やや重い話になってしまいましたが、“異変”に気づくにはやはり情報を集め、常におかしなところがないか気を配るしかないのでしょうか。SDG'sが叫ばれて久しいですが、日々の学習活動の中で、子どもたちにもこのような“気づき”を育ていけるよう、まずは自らを振り返り、教職員と共に“気づき”を大切にしたいと思えます。